

水稲新品種「ニシカゼ」について

岡田正憲・西山 寿・本村弘美・甲斐俊二郎

(九州農業試験場)

OKADA, M., NISHIYAMA, H., MOTOMURA, H. and KAI, S.

A New Variety of Paddy Rice Plant, "Nishikaze"

水稲西海91号は昭和42年から大阪府と岡山県で奨励品種に、福岡県で有望品種に、長崎県で認定品種に採用され、通称名を「ニシカゼ」として、普及に移されたので、育成経過ならびに特性その他の概要をのべて参考に供したい。本品種の育成に直接従事した職員は筆者等および藤井啓史・今井隆典である。

来歴ならびに育成経過

ニシカゼは昭和32年、農林省九州農業試験場でアサカゼを母、金南風を父として人工交配を行ない、その後も同場で世代促進を行ないながら、集団育種法により育成されたものである。すなわち昭和33年にはF₁とF₂、同34年にはF₃とF₄集団がガラス室内で養成され、35年以降は圃場において集団養成が続行された。昭和39年F₉より「西海91号」の系統名で関係府県に配布して地方的適否が検討され、その結果、昭和42年5月(F₉)に水稲農林 185号として登録され、通称名をニシカゼと命名された。

特性の概要

1. 形態的特性 稈長、穂数とも金南風によく似た草状をしめし、やや短稈な穂数型の梗種である。稈の太さはやや細く、穂には白芒が少しあり、稈色は黄白である。粒着は中位で、脱粒性は易である。玄米は中形中粒で、心白、腹白も殆んどなく、品質食味ともかなり良い。止葉は直立せず、穂波が豊かである。

2. 生態的特性 出穂、成熟期ともに金南風に比べてわずかに遅いが、熟期は大体において同程度であり、早生の晩に属する。短稈種であるため倒伏に強く、白葉枯病にも強い。葉いもち病と穂首いもち病には中位であり、紋枯病にはやや弱い。縞葉枯病には日本稲の通有性のとおりで、あまり強くないが、日本稲のなかではやや強い方である。生産力はかなり高く、かつ安定している。

第1表 一般特性

形質	品種名	ニシカゼ	(比)金南風	(比)黄金錦
出穂期(月日)		9. 7	9. 5	9. 3
成熟期(月日)		10. 26	10. 25	10. 23
稈長(cm)		83.0	83.5	96.9
穂長(cm)		19.5	19.1	19.8
穂数(m ² 当り本)		422	398	364
脱粒性		易	中	難
耐倒伏性		やや強	やや強	中
耐病性	葉いもち病	中	中	やや強
	穂首いもち病	中	中	やや強
	白葉枯病	やや強	弱	弱
	紋枯病	やや弱	弱	弱
	縞葉枯病	やや弱	やや弱	弱
α当り玄米重(Kg)		49.8	50.8	48.3
玄米千粒重(g)		22.3	22.6	22.3
玄米品質		上の下	上の下	上の下
調査地・年次		九州農試、生検早生、昭39~41の3ヶ年		

適地および奨励品種採用県

東海近畿以西の暖地地域に広く適応し、金南風・新金南風・黄金錦・キビヨシ・ハツシモ・中生新干本などを対象として入りうるものと思われる。地力の点では肥よく地～中位のところに適し、暖地の平坦部から中山間部にかけて適する。

昭和42年からの奨励品種採用府県は大阪府と岡山県であり、長崎県では認定品種、福岡県では有望品種として、それぞれ普及または種子対策に移されることになった。

栽培上の注意

草状が金南風によく似て、短稈穂数型であるので、肥よく地に好適し、地力中位以下の瘠薄地や秋落地には不適である。また地力中位の普通田では施肥量をやや増加する必要がある。多肥栽培では、とくにいもち病や紋枯病の発生が懸念されるので、防除に万全を期すること。耐倒伏性はホウヨクほどではないので、施肥量には自ら限度がある。

命名の由来

西日本地区に普及し、両親のアサカゼ・金南風の風因んで、ニシカゼと命名された。